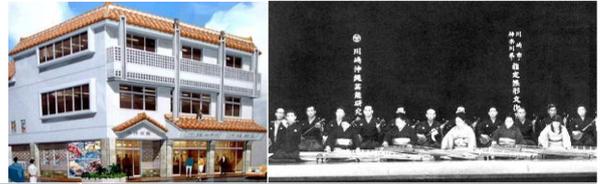


かわさき区の宝物シート

宝物No.
6-8

かわさきおきなわけいのうけんきゅうかい 川崎沖縄芸能研究会



エリア	中央地区	シーズン	通年・秋
	富士見・中島	日時	10月

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



川崎沖縄芸能研究会結成50周年記念公演
昭和25年の研究会創立第1回発表会（上）と
平成13年の50周年記念公演（下）
写真提供：川崎沖縄芸能研究会

所在地	川崎区中島2-3-3（沖縄労働文化会館内）
問い合わせ	川崎沖縄芸能研究会
TEL	044-233-8584
FAX	044-233-5464
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「中島交番前」下車徒歩2分



基礎情報

■第二次大戦後、沖縄が米国の支配下となったことから、故郷の民俗芸能の存続を心配した川崎市内の沖縄出身の人々が、30人余で昭和25年(1950)に「川崎沖縄芸能研究会」を発足させた。
■古典芸能を中心に、民謡や組踊り、老人踊り、女踊りなどの舞踊をはじめとする沖縄芸能の代表的なものほとんどが今に伝えられている。沖縄民謡教室なども開かれ、沖縄出身者だけでなく川崎区住民にも広く伝えられている。毎年10月には川崎沖縄芸能研究会主催の沖縄芸能大会が教育文化会館にて開催され、また県人会間でライブも開催している。

由来・エピソード

■川崎市における沖縄芸能は長い歴史をもつ。大正時代のはじめ、東洋一といわれた富士瓦斯紡績の大工場（現在の富士見1丁目・川崎競馬場）では全国から若い女性従業員が募集された。集団就労者たちの中で多くを占めたのは沖縄出身の女性たちで、やがて親戚縁者も沖縄から川崎へと移り住むようになった。彼らは故郷を偲んで事あるごとに沖縄の伝統芸能を演じ、それは2世、3世へと受け継がれていった。
■古くから国際都市的性格をもっていた神奈川県は、本県の文化ではないものの沖縄芸能の衰亡を心配し、日本の宝として守りたいという思いから、昭和29年(1954)に「沖縄民俗芸能」を県の無形文化財に指定した（昭和51年には重要無形民俗文化財）。他県の文化財に指定されるというのは稀な例で、川崎と沖縄の結びつきの強さを表すものといえ、平成8年(1996)には那覇市・川崎市は国内友好自治体となっている。
■大正13年(1924)に「川崎沖縄県人会」が結成された。会長の仲根修徳さんは沖縄県久米島の出身。昭和44年に川崎に移り住んで以来、沖縄文化を次世代に残そうと熱心な活動を続けている。自らも野村流音楽協会の師範をつとめている。芸能研究会の会員数は現在では当初の14倍、420人にもなった。うち沖縄出身者は半数程度に過ぎないという。昨今の沖縄音楽ブームも手伝って年ごとに会員を増え、沖縄にゆかりのない地元市民や20～30代の若者の入会希望者が多いという。
■「川崎沖縄県人会」は、大正13年(1924)に創立し、平成28年(2016)現在で92年目を数える日本最古の県人会である。

補足・その他

■平成6年(1994)に県と市の補助もあって改築された中島2丁目の「川崎沖縄労働文化会館」。川崎での沖縄芸能文化伝承の拠点ともなっており、県人会事務局が置かれ、また充実した沖縄関連の歴史資料が揃っている。琉球舞踊や沖縄民謡、三線など沖縄芸能の定期練習会や各種集會も開かれる他、1階には沖縄物産店と料理店を構えている。

関連シート

- (6-1)川崎競馬場
- (6-9)沖縄民俗芸能
- (29-5)沖縄料理
- (32-4)佐藤忠之助